

大分県

森林環境税の取組み実績

令和6年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

大分県森林環境税の概要	1
大分県森林環境税の積立・執行状況	2
令和6年度大分県森林環境税活用事業一覧表	3

I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり

1. 災害に強い森林づくり推進事業・環境林整備事業	4
2. 安全・安心な道路環境創出事業	6
3. 鳥獣被害総合対策事業	8
4. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	9
5. 森と海をつなぐ環境保全推進事業（流木等被害対策緊急防除事業）	11

II 森林資源の循環利用による地域活性化

1. 再造林促進事業	12
2. 優良竹林化・利活用推進事業	13
3. 特用林産物生産振興事業	14

III 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組

1. 魅力ある景観づくり推進事業	15
2. みんなで支える森林づくり推進事業	
① 森フェス	16
② 新たな森林づくり推進体制整備事業	17
③ 森林づくりボランティア支援事業	18
④ 森林づくり提案事業	19
⑤ 森林・山村多面的機能発揮対策事業	20
⑥ 大分県森林環境税の広報	21
3. 森林・林業教育促進事業	
① 森林林業教育促進事業	22
② 森林林業教材作成事業	23
③ 次代の森林づくり活動リーダー育成事業	24
④ 名樹とのふれあい事業	25
4. 「森の子学校」体験活動推進事業	26
5. 森林環境学習促進事業	27
6. 未来の環境を守る人づくり事業	29
7. 次世代農林水産業の担い手確保育成事業	31
8. 森・川・海つながり実感！プロジェクト	35

大分県森林環境税の概要

1 大分県森林環境税導入の目的

森林環境の保全と、森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成のための施策に必要な財源を確保するため、平成18年度から県民税の特例として森林環境税を導入した。

2 大分県森林環境税の概要

- 期 間 税の特例期間：5年
第Ⅰ期：平成18年度～平成22年度
第Ⅱ期：平成23年度～平成27年度
第Ⅲ期：平成28年度～令和2年度
第Ⅳ期：令和3年度～令和7年度
- 税 額 個人…年額 500円
法人…年額 1,000円～40,000円 （法人県民税（均等割額）の5%）
- 税 収 単年度 約3億3千万円
- 管理・運営 ・徴収した税は「森林環境保全基金」に積立て、他の事業と区別し活用
・基金の適正な運用を図るため、第三者機関「大分県森林づくり委員会」を設置し、事業の審査や成果の検証等を実施

3 大分県森林環境税の使途

下記のテーマに沿い、荒廃した森林の整備や、再造林の推進、木材の需要拡大、県民が自ら提案し実行する森づくりの支援、森林ボランティア活動の推進等の事業を実施

＜第Ⅰ期 平成18年度～平成22年度＞

- I 県民意識の醸成
- II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり
- III 持続的経営が可能な森林づくり
- IV 遊び学ぶ森林づくり

＜第Ⅱ期 平成23年度～平成27年度＞

テーマ：県民生活を守り、地球環境保全につながる森林づくり

- I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備
- II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用
- III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

＜第Ⅲ期 平成28年度～令和2年度＞

テーマ：自然豊かな大分の魅力を育む
持続可能な森林づくり

- I 県民生活と自然環境を守る森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森にふれ親しみ、森林づくりを支える取組

＜第Ⅳ期 令和3年度～令和7年度＞

テーマ：大分の豊かな森林と
木のある暮らしを次世代へ

- I 県民の暮らしを守る安全・安心の森林づくり
- II 森林資源の循環利用による地域活性化
- III 森林を守り親しみ、次世代につなぐ取組

大分県森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18～H22)

1. 大分県森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 大分県森林環境税の執行状況

(千円)

区分		年度別実績						割合(%)
		H18	H19	H20	H21	H22	合計	
I	県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	13.7
II	環境を守り災害を防ぐ 森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	50.7
III	持続的経営が可能な 森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	28.6
IV	遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7.0
合計		155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23～H27)

1. 大分県森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 大分県森林環境税の執行状況

(千円)

区分		年度別実績						
		H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I	災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II	低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III	県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計		362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅲ期> (H28～R2)

1. 大分県森林環境税の積立状況

(千円)

	H28	H29	H30	R1	R2	合計
基金積立額	315,240	317,844	321,592	322,917	324,642	1,602,235

2. 大分県森林環境税の執行状況

(千円)

区分		年度別実績						
		H28	H29	H30	R1	R2	合計	割合(%)
I	県民生活と自然環境を 守る森林づくり	147,051	130,814	121,422	141,481	180,442	721,210	46.7
II	森林資源の循環利用に よる地域活性化	87,943	87,134	115,041	110,669	117,519	518,306	33.5
III	森にふれ親しみ、 森林づくりを支える取組	51,105	66,623	79,918	58,312	49,867	305,825	19.8
合計		286,099	284,571	316,381	310,462	347,828	1,545,341	100

<第Ⅳ期> (R3～R7)

1. 大分県森林環境税の積立状況

(千円)

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
基金積立額	322,906	324,070	345,300	324,454	—	1,316,730

2. 大分県森林環境税の執行状況

(千円)

区分		年度別実績						
		R3	R4	R5	R6	R7	合計	割合(%)
I	県民の暮らしを守る 安全・安心の森林づくり	140,751	133,922	142,954	145,459	—	563,086	43.5
II	森林資源の循環利用に よる地域活性化	112,761	120,126	121,540	164,114	—	518,541	40.0
III	森林を守り親しみ、 次世代につなぐ取組	45,693	44,616	61,394	61,854	—	213,557	16.5
合計		299,205	298,664	325,889	371,427	0	1,295,184	100

※基金積立額は、税収から市町村の徴収に要する経費を引いたもの ※千円未満四捨五入のため、合計が一致しない

令和6年度 大分県森林環境税活用事業一覧表

(単位:千円)

	施策区分	事業名	事業費	担当課室
Ⅰ 安曇川・民の暮らしの心を森を守る	1 災害に強い森林づくり	1-1 災害に強い森林づくり推進事業（旧：荒廃人工林緊急整備事業）（H30～）	39,975	森林整備室
		1-2 環境林整備事業（R3～）	0	森林整備室
		2 安全・安心な道路環境創出事業（R2～）	20,000	道路保全課
	2 シカ被害対策の推進	3 鳥獣被害総合対策事業（旧：森林シカ被害防止総合対策事業）（H30～）	82,785	森との共生推進室
	3 森・川・海をつなぐ環境の整備	4 森と海をつなぐ環境保全推進事業（H18～）	2,538	循環社会推進課
		5 森と海をつなぐ環境保全推進事業（H19～）	161	漁業管理課
	計		145,459	
Ⅱ 森林資源に資する地域の循環	1 健全な人工林資源の循環と低コスト化の推進	1 再造林促進事業（H22～）	160,800	森林整備室
		2 優良竹林化・利活用推進事業（旧：荒廃竹林整備・利活用推進事業）（R3～）	3,238	林産振興室
	2 森林資源の利活用推進	3 特用林産物生産振興事業（H24～）	76	林産振興室
	計		164,114	
Ⅲ 森を守り親しみ、次世代につなぐ取組	1 里山林の保全活動の推進	1 魅力ある景観づくり推進事業（H25～）	9,457	都市・まちづくり推進課
	2 森林ボランティア活動の促進	2 みんなで支える森林づくり推進事業(H17～)	17,237	森との共生推進室
	3 森林林業教育・森林E S Dの推進	3 森林・林業教育促進事業（H18～）	13,633	森との共生推進室
		4 「森の子学校」体験活動推進事業(R4～)	6,181	社会教育課
		5 森林環境学習促進事業（H18～）	3,654	社会教育課
		6 未来の環境を守る人づくり事業（H28～）	2,981	環境政策課
		7 次世代農林水産業の担い手確保育成事業（旧：農山漁村を牽引する担い手確保・育成事業）（R3～）	2,461	高校教育課
	4 森林づくりへの理解を広げる取組	8 森・川・海つながり実感！プロジェクト(R5～)	4,500	全国豊かな海づくり大会推進室
		9 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク施設整備事業（H29～）※R7に全額繰越し	1,750	自然保護推進室
計		61,854		
総事業費			371,427	

I-1 災害に強い森林づくり推進事業・環境林整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林組合、森林所有者等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、皆伐後に再造林されずにそのまま放置され、公益的機能が低下した森林が発生している。

(2) 目的

河川沿いにおける流木発生危険性の高い森林を対象に森林整備を行い、山地崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

また、木材生産に適さない急傾斜地の尾根谷部について、広葉樹林化を推進することで、森林の公益的機能の高度発揮を図り、災害の発生を防止する。

(3) 事業内容

①河川沿いの森林整備

流木災害発生の恐れがある人工林を更新伐により伐採し、流木の発生を未然に防ぐ。伐採後は、自然植生の回復等により広葉樹林化を図る。

②環境林整備

木材生産に適さない概ね傾斜35度以上の尾根谷部の人工林において、広葉樹による再造林を実施した森林所有者等に対し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

人工林を伐採し、流木発生を抑制するとともに広葉樹林化を図った。

〔森林整備面積〕

	年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	合計
河川沿い	計画	32ha	38ha	25ha	25ha	37ha	39ha	196ha
	実績	35ha	37ha	30ha	37ha	39ha	39ha	217ha
環境林整備	計画	-	-	10ha	10ha	10ha	10ha	30ha
	実績	-	-	-	7ha	0.2ha	0ha	7.2ha

4 今後の課題と取組

河川沿いの森林整備事業による広葉樹林化を引き続き推進するとともに、治山事業等と連携した流域単位での流木被害対策を図ることで、今後も災害に強い森林づくりを推進していく。

また、各市町村及び森林組合等を通じて、木材生産に適さない人工林の針広混交林化や広葉樹林化の普及啓発を更に進め、公益的機能の高い環境林の造成を推進する。

5 実施状況写真



(実施前)



(実施後)

施業地事例：臼杵市大字野田字小倉山

I - 2 安全・安心な道路環境創出事業

【道路保全課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

道路沿線の森林は、道路と自然が調和した良好な景観の形成や運転者の快適な道路利用を促進する効果がある。

しかし近年、土地所有者の高齢化や立木の大径化等によって適切に森林を管理することが困難な状況にある。そのため、台風・豪雨時に多くの倒木が発生し、孤立集落の発生や災害復旧活動の妨げとなっている。

（２）目的

災害発生時に、倒木によって道路を塞ぐなど甚大な被害につながる恐れのある樹木を対象に事前伐採を行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化の取り組みを推進する。

（３）事業内容

県管理道路の沿線において、倒木により甚大な被害につながる恐れのある樹木の伐採を行う。

3 成果

県管理道路沿線の事前伐採により、安全・安心な道路環境の創出や防災力の強化を図った。

令和6年度事業実施路線一覧表

豊後高田市	豊後高田国東線	1箇所
国東市	両子山武蔵線	1箇所
杵築市	山香国見線	1箇所
大分市	久住高原野津原線	1箇所
佐伯市	宇目清川線	1箇所
豊後大野市	宇目清川線	1箇所
竹田市	竹田直入線	1箇所
日田市	国道212号	1箇所
中津市	国道212号	1箇所
宇佐市	国道387号	1箇所
計	10路線	10箇所

4 今後の課題と取組

今後も、倒木発生時に「孤立集落の発生」や「災害復旧活動への妨げ」となる樹木の事前伐採を行い、安全・安心な道路環境の創出や防災力強化に努める。

5 実施状況写真



(実施前)



(実施後)

両子山武蔵線（国東市安岐町富清）



(実施前)



(実施後)

宇目清川線（豊後大野市三重町中津留）



(実施前)



(実施後)

国道 212 号（日田市大山町西大山）

I-3 鳥獣被害総合対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる林業被害は県内で約 1,800 万円に上り、横ばい傾向であり、地域によっては依然として深刻な被害が懸念される。捕獲により生息頭数が減少している地域もあるが、未だに高密度地域も多いことから、稀少植物の食害等、生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる林業・森林生態系被害は県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されていることから、シカ捕獲の強化を行い、シカを適正な生息密度まで減少させることにより、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

シカの捕獲報償金の上乗せ助成により捕獲圧強化を図り、生息密度及び被害の低減に向けた取組を推進する。

また、狩猟免許取得者を対象に、技術向上を目的としたスキルアップセミナーを実施し、より効果的な捕獲を推進する。

3 成果

捕獲報償金及びスキルアップセミナーによる技術向上によって捕獲強化が図られ、シカの適正管理及び被害防止に資する取組を推進することができた。

令和 6 年度捕獲報償金事業実績：40,634 頭

スキルアップセミナー参加者数：156 人

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカによる農林業被害は多く、適正な生息密度より高い状況にあるため、引き続きシカ捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

再造林地やクヌギの萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き、シカによる被害及び生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に取り組む。

I-4 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【循環社会推進課】

1 実施主体

地区自治会、NPO等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

海岸漂着流木等は、下流域住民の生活や経済活動の障害であり、流木等の回収・切断や処理施設への搬送にかかる労働力と経費の負担が大きい。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な費用を助成し、地区自治会やNPO等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	場所	参加者数 (人)	回収量 (m ³)
NPO 法人エー・ビー・シー 野外教育センター	住吉浜海水浴場	155	0.8
長洲アーバンデザイン会議	長洲海岸	600	10
NPO法人水辺に遊ぶ会	大新田海岸、三百間海岸	618	7.2
天津地域づくり協議会	宇佐市布津部・宮熊に面した海岸	293	40
一般社団法人 Mfisea	－（環境学習）	50	－
日本風景街道おおいた海べの道推進協議会	大分県内6箇所の海岸清掃 （豊後高田・長崎鼻、別府・関の江、国東・龍神、杵築・住吉浜、日出・糸ヶ浜、津久見・網代）	582	3.9
NPO法人国東市手と手とまちづくりたい	国東市内海岸 （国東町綱井重藤地区の海岸、平床・小原地区の海岸、黒津崎海岸、羽田海岸、安ヶ浜）	500	4.6
大分県漁業協同組合臼杵地区	臼杵市全域の海岸	480	54
間越地区活性化推進協議会	間越海岸	139	20
杵築市まちピカ運動推進委員会	守江港海岸	34	10

3 成果

10 団体、3,451 人の参加者があり、海岸の環境保全活動が推進された。

年度	R2	R3	R4	R5	R6
参加者数（人）	1,717	3,968	3,201	3,481	3,451
実施団体数（団体）	6	13	11	12	10

4 今後の課題と取組

海洋プラスチックごみ問題や、内陸でポイ捨てされたごみが川等を通じて海に流出している現状について、沿岸住民だけでなく内陸住民にも自分事として認識してもらう必要がある。当事業や関連事業を通じて住民の森・川・海の流域全体を保全する意識の醸成を図っていく。

5 実施状況写真



間越海岸での海岸清掃の様子（間越地区活性化推進協議会）



米水津小学校での環境学習の様子（間越地区活性化推進協議会）

I-5 森と海をつなぐ環境保全推進事業

(流木等被害対策緊急防除事業)

【漁業管理課】

1 実施主体

大分県漁業協同組合

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

台風、豪雨等により河川沿いの森林などから、漁港や港湾内などに漂着・滞留する流木等が漁業活動（操船、操業）の妨げとなり、回収・処理作業が終了するまで出漁できない事例がある。

流木等の漂着ごみの回収・処理は、施設管理者や海岸管理者が実施する責務を有するが、処理数量の把握、業者の選定などに多大な時間を要することから、迅速な対応が困難となっている。

(2) 目的

漁港や港湾内などに漂着・滞留する災害由来流木等は漁業活動の障害となるため、漁業者自らによる迅速な回収作業を推進することで、漁業被害の防止・軽減を図る。

(3) 事業内容

大分県漁業協同組合が実施する、流木等の回収に対して支援する。

3 成果

令和6年度は8月の台風10号で流木が発生し、亀川漁港、大神漁港、真那井漁港で流木除去を行うことで漁業被害を防止した。

年度	R2	R3	R4	R5	R6
実施箇所数（港数）	5	—	1	1	3
処理量（m ³ ）	235	—	4.5 t	3.7 t	15

4 今後の課題と取組

豪雨災害等による流木の発生状況調査を実施したうえで、漁業関係者と連携しつつ、優先度の高い地域から順に被害の防止・軽減に努める。

5 実施状況写真



(実施前)



(実施後)

大神漁港

Ⅱ－1 再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内の人工林は利用期を迎えており、合板・集成材等の需要の増大に加え、木質バイオマス発電施設の稼働も追い風となり、国産材需要は増加傾向にある。

それに伴い、主伐も増加傾向にあることから、持続的な林業経営を行うためには、主伐後の確実な再造林が求められている。

(2) 目的

林業適地における疎植造林（低コスト再造林）を支援することにより、森林整備の育林コストを低減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に森林の公益的機能の回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数 1,000～2,000 本/ha(法令による制限は遵守))を実施した森林所有者等に対し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

本事業を開始した平成 22 年度以降、再造林面積が増加し、再造林放棄地は減少している。また、平成 21 年度は県内でのスギ・ヒノキの疎植造林の割合が 44%であったが、令和 6 年度は 96%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

〔再造林促進事業の計画及び実績〕

【単位：ha】

年度	R2	R3	R4	R5	R6
計画	1,000	926	950	1,000	1,000
実績	796	759	934	1,069	1,150

4 今後の課題と取組

各市町村及び森林組合等を通じて、低コスト再造林の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



再造林放棄地



低コスト再造林を実施した現地

Ⅱ－2 優良竹林化・利活用推進事業

【林産振興室】

1 実施主体

市町村、森林組合、農協法人、竹材・タケノコ生産者、竹チップ・竹炭等の利活用を推進する者等

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。

（２）目的

竹材、タケノコ生産地として持続管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

（３）事業内容

竹材、タケノコ生産地として持続管理や竹チップ等の利活用を推進するための竹林整備及び簡易作業路開設等を行う。

3 成果

タケノコ・竹林生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

伐竹等整備 2.20ha（別府市、杵築市、日出町、臼杵市、日田市、九重町、豊後高田市、宇佐市）

4 今後の課題と取組

竹林を有効活用するため、たけのこ生産竹林楽校等の取組により竹林整備の担い手を育成するとともに、優良竹林化の事業を継続し、タケノコ及び竹材の生産振興とともに竹林の整備を推進する。

5 実施状況写真



（事業実施前）



（事業実施後）

Ⅱ－3 特用林産物生産振興事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県（林産振興室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

本県は全国３位の竹林面積を有しているが、代替素材の普及等により竹材利用量は減少傾向にあり、荒廃竹林増加の一因になっている。また、伐竹作業員の高齢化・後継者不足も課題となっている。

（２）目的

たけのこ生産や竹材管理に関する基本的な知識や技術等を学ぶ竹林楽校を開催し、竹林を持続的に整備する竹林管理者を確保・育成する。

（３）事業内容

①たけのこ生産竹林楽校・・・基礎知識、伐竹実習

研修生 20 名／研修 2 回実施

②竹林楽校特別研修・・・伐採技術研修を①の研修と併せて 2 回開催

竹工芸訓練センター訓練生 12 名

大分林業アカデミー研修生 8 名

3 成果

たけのこ生産竹林楽校と竹工芸訓練センター訓練生および大分林業アカデミー研修生の特別研修を同時に行うことによって、様々な視点からの活発な意見交換ができた。

第２回の実習では、たけのこ生産と竹材生産の２コースに生徒を振り分け、生徒の受講目的に沿った竹林管理方法について、十分な時間を確保して研修を行うことが出来た。

4 今後の課題と取組

たけのこや小径竹材、竹工芸用材を生産する担い手の高齢化や後継者不足が深刻な課題であるため、引き続き研修等の幅広いＰＲを行うと共に、補助事業により竹林の持続的な管理と人材確保を推進する。

5 実施状況写真



基礎知識座学



伐竹実習

Ⅲ－１ 魅力ある景観づくり推進事業

【都市・まちづくり推進課】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内には、豊かな自然環境から創出された景観資源が多数あるが、手入れをされず放置された樹木等により、景観が阻害されている箇所が多く見受けられる。

(2) 目的

観光ルート沿線等において、景観の支障となっている樹木等を伐採することにより、景観を再生する。

(3) 事業内容

景観の支障となっている樹木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

3 成果

- ・観光ルート沿線等の景観が再生され、観光客を受け入れる準備が整った。
- ・伐採後、地元団体により伐採箇所周辺の清掃活動や除草作業等、優れた景観を維持・活用しようという機運が高まった。

伐採箇所	補助率
一目八景・小友田桜並木（中津市）、城山歴史公園（佐伯市）、国指定史跡岡城跡（竹田市）、両合棚田（宇佐市）	1 / 2 以内

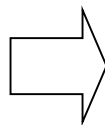
4 今後の課題と取組

本事業は令和6年度で終了するが、本事業を通じて高まった機運を下げることなく、行政や地元団体が協働して優れた景観の維持・活用を継続する必要がある。

5 実施状況写真



(実施前)



(実施後)

城山歴史公園（佐伯市）

Ⅲ－2 みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

① 森フェス

1 実施主体

森フェス実行委員会（大分県・（公財）森林ネットおおいた）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

令和４年度に開催した「第４５回全国育樹祭」を契機とした次代につながる森林づくりを推進するため、森林・林業に興味・関心を持って森づくりを担う人材の育成が求められる。

（２）目的

第４５回全国育樹祭の「伐って使い、植えて育てる」、「次代につながる森林づくり」の取組みを一過性としないうちに、森林・林業体験イベントを開催する。

（３）事業内容

森林・林業の関心を高めるため、子どもを中心に親子を対象とした森林・林業を楽しく体験できるイベントを開催する。

3 成果

参加者は８５５名で、子どもや親子が森林内での体験活動や広場での様々なアクティビティを体験し、森林や林業に親しむことができた。これによって、日常では森林や林業に関わる機会がない県民にも、森に親しむ機会を提供することができた。

日時：令和６年１１月１６日（土）

場所：志高湖（別府市）※志高湖マルシェ、伐木大会と合同開催

4 今後の課題と取り組み

森フェスは年１回の取組であり、会場から遠方に住む子どもは参加が難しいため、森林・林業教育や木育などの取組を行っている団体を支援することで、県下各地で様々な活動が広がるよう働きかける。

5 実施状況写真



ツリークライミング



上棟体験



伐採体験

② 新たな森林づくり推進体制整備事業

1 実施主体

大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

大分県森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念として、税を活用した取組を進めている。大分県森林環境税の運用には様々な立場の県民からの意見を取り入れることが重要である。

（２）目的

大分県森林環境税の適正な運用を行うため、県民の代表からなる「大分県森林づくり委員会」による審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

（３）事業内容

第４期の大分県森林環境税の活用を円滑に推進し、第４期末に向けて今後の方向性を固めるため「大分県森林づくり委員会」を開催する。

3 成果

「大分県森林づくり委員会」を４回開催し、県民の意見を取り入れることで、大分県森林環境税を適正に運用し、今後の方向性について意見を得ることができた。

回数	開催日	主な協議事項
第１回	R6. 7. 1	令和５年度森林環境税活用事業の実績・令和６年度予算概要
第２回	R6. 10. 23	令和７年度森林環境税活用事業提案
第３回	R6. 12. 24	令和７年度県森林環境税事業予算
第４回	R7. 2. 21	大分県森林環境税の今後のあり方

4 今後の課題と取組

大分県森林環境税を激化する自然災害への対応、SDGs や脱炭素の取組等の変化する社会情勢に活用するため、委員会等により県民の意見を取り入れつつ、適正な運営を引き続き行う。

5 実施状況写真



第１回委員会



第２回委員会

③ 森林づくりボランティア支援事業

1 実施主体

大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県では平成 14 年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」（大分市高尾山自然公園内）を中心に森林ボランティア活動を推進している。

（２）目的

県民一人ひとりが身近な森づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

（３）事業内容

大分県森林づくりボランティア支援センターを設置し、HP や情報誌の発行により森林ボランティア情報の発信等を行い、森林ボランティア活動を支援する。

3 成果

HP の更新（62 回） 及び「森林づくりボランティア支援センター通信」の毎月発行により、ボランティア活動等の情報発信を行い、森林づくり活動の機会を提供できた。それによって、令和 6 年度の森林ボランティア参加者数は 13,088 人となり、県民みんなで森林を守り育てる意識の醸成ができた。

4 今後の課題と取り組み

参加者の高齢化や固定化という課題があるため、引き続き県民に向けて情報発信を行うとともに、若い世代の森林ボランティア育成を推進する。

5 実施状況写真



広報誌



森林ボランティア活動

④森林づくり提案事業

1 実施主体

3名以上の県民で構成された団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

多くの県民が森づくりに参加するためには、県民自らが森づくり活動を企画し取り組む必要があるが、活動資金がないため活動が行えない場合がある。

(2) 目的

県民自らが森づくり活動を企画・実行することで、森林をすべての県民で守り育てる意識を醸成する。

(3) 事業内容

県民が自ら企画し取り組む「森づくり活動」や「森林環境教育活動」に要する経費を支援する。

3 成果

県民から提案のあった森づくり活動に要する経費について、6団体を対象に支援を行い、多くの県民に森林を守り育てる意識が醸成された。

活動団体名	活動場所 (市町村)	活動内容	新規 継続	活動者数 (人)
鎮南山を愛する会	臼杵市	ミツマタの植樹・下刈り、自然観察 コース整備・清掃、自然観察会	新規	108
本宮山を守る会	大分市	自然観察会、記念植樹	新規	42
河原内自然環境保全くら ぶ	大分市	里山保全維持活動	新規	69
特定非営利活動法人 里山保全竹活用百人会	竹田市	地域の児童等への森林環境教育 (自然観察・竹箸・門松づくり等)	継続	73
NPO法人 木林乃森を守る ネットワーク	日田市 前津江町	植林活動	新規	15
千部もみじ村	豊後高田市	もみじ植栽、保育等、 しいたけ駒打ち体験	継続	256

4 今後の課題と取り組み

森づくり活動への参加者をさらに増やすため、「森林・林業体験活動」に要する経費についての助成を検討する。

5 実施状況写真



自然観察会



植林活動

⑤森林・山村多面的機能発揮対策事業

1 実施主体

地域協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

里山林は、石油・ガスなどの化石燃料や化学肥料の普及等により地域住民との関係が希薄になり、侵入竹などによる荒廃が進んでいる。

(2) 目的

山村地域の暮らしと密接に結びついた里山林のうち、十分な管理が行われなくなった里山林を保全する。

(3) 事業内容

地域住民、森林所有者等が協力して行う、里山林の保全管理や資源を利用するための活動に対して国が「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」により支援を行う活動について、助成を行う。

3 成果

里山林整備に要する経費について、8団体を対象に支援を行うことで、里山林の多面的機能の強化や森林資源の活用が推進された。

〔活動団体数〕

大 分 市	2 団 体
由 布 市	3 団 体
杵 築 市	2 団 体
中 津 市	1 団 体

4 今後の課題と取り組み

里山林保全を推進するため、引続き保全活動に要する経費の助成を実施する。

5 実施状況写真



広葉樹林整備（由布市）



竹林整備（由布市）

⑥大分県森林環境税の広報

1 実施主体

大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

令和５年度の県政モニターを対象にした森林環境税に関するアンケート調査では、大分県森林環境税の導入を知っていた割合は 58%と低かった。

（２）目的

大分県森林環境税を県民に知ってもらうことで、県民総参加の森づくりの意識醸成を図る。

（３）事業内容

各種媒体を活用した広報活動を行う。また、今後の大分県森林環境税を活用した施策や税のあり方を検討するため県民及び企業に対して、無作為抽出によるアンケートを実施する

3 成果

新聞広告やラジオなど各種媒体を活用し、大分県森林環境税に関する広報を行うことで「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。また、アンケート調査を県民 2,000 人に実施したところ、787 人から回答があり、県民の 22%しか大分県森林環境税を認知していないことや 7 割以上が税額について妥当であり、継続に賛成であることがわかった。

〔広報回数〕

- ・新聞広告 3 回
- ・ラジオ広報 15 回
- ・「大分県の森林づくり」fakebook 更新 60 回
- ・森林づくりマスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみ貸出し回数 11 回

4 今後の課題と取り組み

大分県森林環境税は第４期を迎えたが、導入や用途について知らない県民も多いため、今後もマスメディアやＳＮＳ等を活用し周知を図る。

5 実施状況写真



もりりん着ぐるみによる PR（中津木育 wood フェス）

Ⅲ－3 森林・林業教育促進事業

【森との共生推進室】

①森林林業教育促進事業

1 実施主体

大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

令和２年の学習指導要領改訂の際「体験活動の充実」が盛り込まれたため教育の場としての森林活用が期待されるが、森林・林業教育を受講する機会は限られる。

（２）目的

大分の森づくりを担う子どもを育成するため、学校教育等において森林や林業について専門家から学ぶ機会や林業現場での体験学習の機会を創出する。

（３）事業内容

- ・体験型子ども科学館 0-Labo と連携した森-Labo（森林・林業体験講座）を行う。
- ・森林・林業教育ができる指導者を養成するため指導者育成研修を開催する。
- ・森林・林業教育を希望する学校に対して講師の派遣及びバス等の助成を行う。
- ・教育施設等で開催する活動に、森や自然に関する知識や体験活動の経験を有する専門家である「森の先生」を講師として派遣する。

3 成果

森-Labo や学校への講師派遣、教育施設への森の先生派遣によって、森林内や林業現場において実際に子ども達が体験する学習の場を提供することができた。

- ・森-Labo の開催回数 6 回、参加者数 154 人
- ・森林・林業教育指導者育成研修会開催数 2 回、参加者数 16 人
- ・森林・林業教育支援校 4 校、参加者数 92 人
- ・森の先生派遣回数 93 回、参加者数 3,444 人

4 今後の課題と取組

森林・林業教育を体験できる機会を引続き創出し、子どもが森林や林業に関心をもつよう取組む。また、森林に関する体験学習ができるフィールドの確保に取組む。

5 実施状況写真



森-Labo



講師派遣（森林・林業教育支援）



森の先生派遣

②森林林業教材作成事業

1 実施主体

大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県は令和３年度に大分県の森林の現状や林業が果たす役割等を体系的にまとめ、動画解説も盛り込んだ教本である「大分県森林・林業デジタル副読本」を学習指導要領に沿って作成した。しかし、昨年度のアンケートによる活用調査では 27 校のみの利用となった。

（２）目的

多くの学校で副読本を活用した森林・林業教育を実施することで、大分県の森林・林業の理解を促進する。

（３）事業内容

副読本の活用を推進するため、リーフレットを県下の小・中学校に配布する。

3 成果

県下の小学校 251 校、中学校 123 校にリーフレットを配布し、アンケートによる活用調査では 35 校が副読本を活用した森林・林業教育を実施した。これにより、森林・林業の理解が深まった。

4 今後の課題と取組

副読本の効果的な活用方法の周知や利用促進のため、教育関係者と連携して教育現場への働きかけを行う。

5 実施状況写真



小学校用



中学校用

③次代の森林づくり活動リーダー育成事業

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

(2) 目的

日頃から地域で森づくりや緑化活動を実践している「みどりの少年団」が研修等によって、次世代の森づくりの担い手となるように資質向上を図る。

(3) 事業内容

- ・少年団の地域活動に必要な資機材の購入経費を補助。
- ・世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施。
- ・各少年団の相互交流のための、宿泊型野外体験活動である「つどい」を実施。
- ・各少年団の活動内容を紹介するみどりの少年団活動発表大会を実施。

3 成果

各活動により少年団員の森林・林業に対する理解が深まり、交流を通じて心豊かな人間性が育まれた。

- ・資材等購入経費補助少年団数 18 団
- ・屋久島自然体験研修参加者数 26 人（7 団）
- ・つどい参加者数 61 人（7 団）
- ・活動発表大会参加者数 55 人（8 団）

4 今後の課題と取組

より多くのみどりの少年団が充実した活動を実施できるよう、継続した支援を行うとともに支援について広く周知を図る。

5 実施状況写真



屋久島自然
体験研修



つどい



活動発表大会

④名樹とのふれあい事業

1 実施主体

市町村、大分県（森との共生推進室）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

県では大分県環境緑化条例により、地域の風習と結びつき、住民に畏敬されてきた老樹・名木を「特別保護樹木・樹林」として指定している。特別保護樹木・樹林は気象害や経年劣化によって、樹勢の悪化や倒伏の恐れが生じ、管理・防災面から対処が求められている。

（２）目的

特別保護樹木・樹林のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

（３）事業内容

- ・ 樹木医による樹木の診断・治療
- ・ 標柱・標識の設置・立替

3 成果

不健全樹木を診断・治療し、特別保護樹木・樹林の保全が図られた。

- ・ 診断 2 件（中津市：シダレザクラ、九重町：カヤ）
- ・ 治療 2 件（中津市：シダレザクラ、津久見市：アコウ）
- ・ 標柱・標識の設置 4 箇所（佐伯市：八坂神社の森、国東市：ケンポナシ
宇佐市：クロガネモチ、ムクノキ）

4 今後の課題と取組

特別保護樹木・樹林は樹齢が 100 年以上の古木が多いため、引き続き事業を実施して樹木の健全化を図る。

5 実施状況写真



診断（カヤ）



標識の立替（八坂神社の森）

Ⅲ－4「森の子学校」体験活動推進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立香々地青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

理科・社会などの各教科と関連付けた森林の役割や保全の学習と連動した体験活動の機会が少ない。

(2) 目的

社会教育施設である青少年の家を活用し、学校教育と連動した事前学習、直接体験、事後学習からなる森林・林業教育プログラムを実施することにより、次世代を担う子どもへの森林・林業教育の推進を図る。

(3) 事業内容

香々地・九重青少年の家の集団宿泊研修を実施する学校に対して、プログラムの提供及びモデル校によるプログラムを実践する。

3 成果

県内小学校 13 校、中学校 2 校でプログラムを実施することで、森林・林業教育を推進できた。

事後アンケートで理解度を 6 段階評価で確認し、3 以上の理解度で評価した割合が 85%を上回った。また、「大分県の森林についてよく知っている」の項目については、大幅な理解度向上がみられた。

4 今後の課題と取組

令和 7 年度はプログラムモデル実践校の目標数を 15 校から 20 校に増加する。また、幼児向けの新たなプログラムを開発し、広報を充実させるなどして実践校を募っていく。

5 実施状況写真



事前学習の様子



林業講話



丸太切り体験



樹木オリエンテーリング

Ⅲ－5 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

- ・児童・生徒の自然体験活動・環境学習機会の不足。
- ・森林環境学習指導者の減少および高齢化

(2) 目的

森林環境学習を推進するため、森林環境学習指導者の養成と児童・生徒への学習機会の提供を行う。

また、子どもたちの体力・運動能力の向上を図るとともに木への親近感を高めるため、運動遊びを通して木や森の魅力を体感できる体験活動を行う。

(3) 事業内容

- ①幼児期からの環境学習に関する学習会の実施
- ②森林環境学習指導者の資質向上研修及び新たな指導者養成研修の実施
- ③自然環境での運動（遊び）を推進するための指導者の派遣

3 成果

①「森の子レンジャー」を3回実施し、33名の参加があった。アンケートを実施し、「森林環境を楽しむことができた」と全員が回答した。特に森林環境学習指導者による体験活動（火おこし体験など）が好評であった。また、「森の楽校」では、自然体験によって学習をさらに深めることができた。

※「森の子レンジャー」：5歳以上の未就学児～小学校3年生までの子どもと家族を対象とした森林環境学習

「森の楽校」：小学校4～6年生の児童を対象とした森林環境学習。

②「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」を森林環境学習指導者のスキルアップを目指し3回開催した。その中でも「八坂川の生き物と川の保全」の研修会では、現地で研修を行い、知識を学ぶだけでなく、観察に必要な準備物や活動の方法を学ぶことができた。また、森林環境学習者養成研修を3回実施し、新たに2名の森林環境指導者を養成した。

③「森林（もり）の環境学習サポート隊」では、申請のあった団体に森林環境学習指導者による専門的な支援を提供し、九重青少年の家での森林環境学習をスムーズかつ効率的に進めることができた。

4 今後の課題と取組

学習効果を高めるために以下の点が必要である。

- ・生き物等の観察に適した時期や時間等を十分考慮した研修会等を実施する。
- ・フィールドワークの時間配分を再度検討する。
- ・子どもを対象とした森林環境学習機会の増大に向け、森林環境学習指導者の拡

大と指導力向上につながる研修の充実を図る。

- ・九重青少年の家で充実した自然体験活動を行うため、施設整備を進めるとともに、新規プログラム提供、自然観察・体験活動の充実を図る。

- ・子どもの森林や木への関心を高めるとともに、体力・運動能力・精神力の向上を図るための、環境学習を推進する。

5 実施状況写真



森の子レンジャー



森の楽校



スキルアップセミナー



環境学習サポート隊

Ⅲ－6 未来の環境を守る人づくり事業

【環境政策課】

1 実施主体

大分県（委託先：グリーンアップおおいた実践隊（旧おおいたうつくし推進隊）、NPO法人、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等）

2 実施事業の概要

（１）現状と課題

様々な環境問題の解決には、子どもの頃からの実体験を伴う環境学習が重要であるが、学校現場においては時間や予算がないといった理由により、年間を通じた計画的な環境学習が十分には実施されていない。

他方、環境学習に取り組む団体もあるが、資金面の問題から単発的なものが多く、体系的な活動が困難な場合が多い。

（２）目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため、県内の子どもが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手となってもらう。

（３）事業内容

①おおいたこども探検団推進事業

県内の子どもに対する自然体験活動など、年間を通じて実体験を伴う環境学習を行う事業を県が団体に委託して実施する。

②グリーンアップおおいた（旧大分県環境教育）アドバイザー派遣事業

地域や小中学校、企業などで行われる環境に関する勉強会などに、各分野の専門知識を有したグリーンアップおおいたアドバイザーを派遣する。

3 成果

県内の子どもの環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手づくりを進めることができた。

①おおいたこども探検団推進事業

年度	R2	R3	R4	R5	R6
採択団体数	8	9	9	9	11
受講者数（人）	約 600	約 2,000	約 1,000	約 1,000	約 1,000

②グリーンアップおおいたアドバイザー派遣事業

年度	R2	R3	R4	R5	R6
派遣実績（件）	96	114	153	187	199
受講者数（人）	3,486	5,822	7,169	9,363	9,412

4 今後の課題と取組

今後も、県内の子どもが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考えて行動する力を育成し、環境保全の取組の担い手づくりを着実に進める。

5 実施状況写真



①おおいたこども探検団推進事業
うすき生活学校「Musubi」
(ユネスコ食文化創造都市臼杵市で
吉四六話を交えて田んぼ調査)



②グリーンアップおおいたアドバイザー
派遣事業
(自然観察・どんぐりクラフト)

Ⅲ－７ 次世代農林水産業の担い手確保育成事業

【高校教育課】

１ 実施主体

大分県（高校教育課）

２ 実施事業の概要

（１）現状と課題

高齢化などにより林業経営体数が減少しており、森林荒廃や農山村の崩壊が危惧されている。そんな中、日田林工高校林業科では、専門性を活かした教育を実施しており、大分県林業に貢献できる人材を育成している。今後さらに関連就職・進学を増やしていくことが求められる。

（２）目的

県林業を牽引する日田林工高校林業課において、林業作業の効率化・省力化が期待できるスマート技術などの先端的な森林管理の考え方や手法を直に学ぶ体験を通して、生徒に地域林業における課題意識を持たせ、その解決に向けた意欲喚起を行うことで時代のニーズに対応した人材を育成する。併せて、小中学生に対しても森林管理の重要性を伝え、林業の担い手の裾野を広げる。

（３）事業内容

①外部講師招聘授業

スマート林業に関する外部講師を招聘し先端技術を学ぶ。

②出前授業

小中学生を対象に、環境と森林の関係や林業科の学習内容を理解してもらうため、高校生が先生役となり、自分たちが学んでいる林業の理解を深める。

③国内研修

古くから林業の先進県である和歌山県・京都府・岐阜県で、先端林業技術の開発状況や先進的かつ持続可能な森林管理を学び、林業大学校で体験学習をすることで林業に関する知識や技術を向上させ、視野や思考を広げる。

④高性能林業機械講習

地元の林業に関して、機械化や省力化が進んでいる現状を学習するため、ハーベスタやフェラーバンチャーなどの高性能林業機械の見学や操縦体験およびドローンによる機材運搬の様子を見学する。また、伐木等の業務に係る特別教育における資格取得に取り組む。

⑤林業労働災害・伐木技術教育VRシミュレーターの活用

シミュレーターを導入する。

３ 成果

①外部講師招聘事業

ア ドローンの活用技術（ドローン操縦体験や利用実態の学習）

地元産業（特に林業）を中心に、ドローンがどのように利用されているか等のプレゼンを見て、林業の現況を知ることができた。また、ドローンの操縦体験で

は、簡単な動きではあったが、繊細なレバー操作を体験できた。

イ 女性フォレスターによる林業現場の実際

マルマタ林業(株)清水未季子氏を招いて、「林業を学ぶ誇り～女性きこりの視点からリアルな林業の世界～」と題し、林業の現場を女性の視点から捉えて、職業人としてのやり甲斐などを語っていただいた。

ウ リモートセンシング（林況調査の方法）

大分県西部振興局が林況を測定・分析する方法について講義をし、立体鏡を用いた測樹や空中写真による森林調査の技術を学んだ。

エ チェーンソーアート（林業機械や森林資源の活用）

ひのくにチェーンソークラブ 田中章氏を招いて、チェーンソーアートの実演・講習を実施し、チェーンソーの操作技術と高度な作品製作に生徒は感銘を受けた。

②出前授業

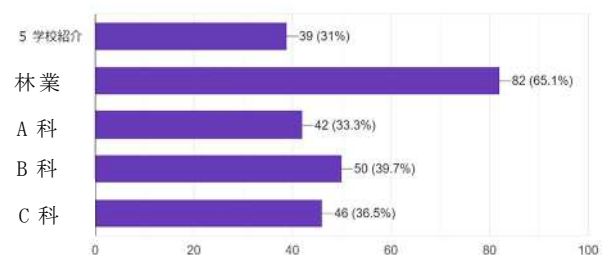
ア 中学校への出前授業

林業科3年生による中学校2校への出前授業を行い、業科の学習内容の紹介とチェーンソーによる丸太切りの模擬実演と体験を行った。

<中学生アンケートコメント>

・各学科の説明がわかりやすく、丸太切りの体験をしましたが凄く丁寧にわかりやすく教えてくれたりして良かったし、やってみて凄く楽しかったです！

Q2：最も印象に残ったのは、どの学科のブースでしたか？
126件の回答



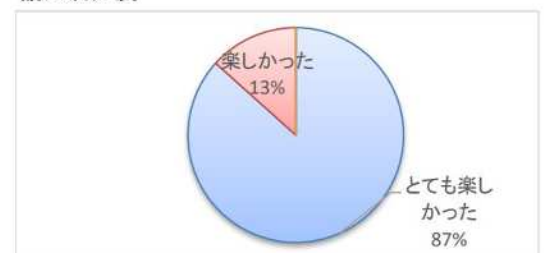
イ ミニ門松づくり（O-L a b o）

小学生15名を対象にミニ門松づくりを年末に実施した。竹飯づくりも併せて行ったが、キットの準備から当日の指導まで本校生徒が関わり、アンケート結果から双方にとって満足度の高い取り組みとなった。

<小学生アンケートコメント>

・門松作りも楽しかったし、ご飯も美味しかったです。給食が毎日これだといいな♪
・門松を作る準備をこんなにしてくれて、ありがとうございます。と感謝して言いたいです。

講座満足度



③国内研修

林業科2年生から参加希望者を選抜し、3泊4日の研修を行った。研修先は、和歌山県の日高川町紀州備長炭保存会、京都府の森林技術センター、林業大学校、京都北山丸太生産協同組合、岐阜県のオークビレッジ(株)である。研修へ臨むにあたり、事前学習を入念に行い、研修先での質問内容等を準備した。九州地方とは異なる施業体系や伝統の生産工程、ものづくりを直に垣間見ることができ、生徒にとっては地元林業の在り方や良さを見直すきっかけや自己の進路選択を考える機会になった。

④高性能林業機械講習

林業科1年生対象（基礎編）：ハーベスタやロングリーチグラップル等の高性能林業機械の講習会を大分県西部振興局と地元の林業事業体と連携して実施した。林業機械の体験操作や機械動作の様子を間近で見ることで、2年次の応用編に繋がる学習となった。

林業科2年生対象（応用編）：由布市にある林業研修所において、伐木等に関する安全教育講習を受講した。林務管理課と連携した事業であり、資格証明書を生徒に交付した。

⑤林業労働災害・伐木技術教育VRシミュレーターの活用

VRシミュレーターを新規に導入し、「森林科学」「総合実習」でチェーンソーの技術・安全指導に活用した。現場実習が限られる中で、機械の操作技術の習得並びに事前の安全教育の充実を図ることができた。

4 今後の課題と取組

学校行事や各種事業との調整により実施時期の選定を早めにする必要があった。国内研修では現在の温暖化に伴う森林環境の変化に応じた温暖地での研修の必要性を感じた。農業部が行っていた海外研修（台湾）との連携を含めて考えたい。また、地元小中学校への林業学習普及に関するGE事業や出前授業も継続したい。

5 実施状況写真

①外部講師招聘事業



ア ドローンの活用技術



イ 女性フォレスターによる
林業現場の実際



ウ リモートセンシング



エ チェーンソーアート

②出前授業



ア 中学校への出前授業



イ ミニ門松づくり

③国内研修



紀州備長炭製炭工程



オークヴィレッジ(株)製品

④高性能林業機械講習



基礎編



応用編

⑤林業労働災害・伐木技術教育VRシミュレーターの活用



Ⅲ－8 森・川・海つながり実感！プロジェクト

【全国豊かな海づくり大会推進室】

1 実施主体

第43回全国豊かな海づくり大会大分県実行委員会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

「豊かな海」の環境は、栄養豊富な水を供給する森林や河川と密接な関係にあり、多様な生物が暮らす「豊かな海」を次世代に継承するためには、海、川はもちろん、森の環境を保全することが重要である。

自然環境の保全については、林業関係者や漁業関係者だけでなく、県民の環境保全に対する意識向上が欠かせないが、県民が森・川・海をつなぐを一体的に学べる機会は乏しい。

(2) 目的

森・川・海をつなぐと自然環境の保全について、県民の理解を深めるとともに環境保全への関心を高める。

(3) 事業内容

県内小学生（4～6年生）を対象に、森、川、海の各フィールドの専門家による自然環境や生物についての説明や、様々な野外活動を体験してもらうツアー型の体験プログラムを実施する。

3 成果

体験プログラムを全6コース開催し、計85名の参加があった。

応募者は延べ690人であり、体験学習等を通じて自然環境について学ぶ機会を多くの県民が望んでいる様子が伺えた。

プログラム終了後に参加者アンケートを実施したところ、「自然環境の保全の重要性」について「とてもわかった」「わかった」との回答が96%、「森・川・海へまた来たいか」について「とても思う」「思う」との回答が93%であり、参加者の環境保全に対する理解を深め、関心を高めることができた。

〔プログラム概要〕

コース	開催日	参加者	開催地	内容
①	7月21日（土）	14人	中津市	中津干潟での生物観察など
②	8月1日（木）	17人	杵築市	八坂川での生物観察など
③	8月21日（水）	14人	佐伯市	オルレコース（大入島）散策など
④	8月23日（金）	12人	佐伯市	海岸での地引網体験など
⑤	9月16（月）	14人	大分市 由布市	うみたまごバックヤードツアーなど
⑥	9月21（土）	14人	国東市	原木しいたけのコマ打ち体験など

4 今後の課題と取組

令和6年11月10日に開催した「第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おいた大会～」を契機に、自然環境の保全に対する県民の意識向上をさらに促進する必要がある。

引き続き体験プログラム等の学びの機会を多くの県民に提供し、自然環境保全の取組を推進していきたい。

5 実施状況写真



コース①
(干潟の生物観察)



コース②
(川の生物観察)



コース③
(自然散策)



コース④
(地引網体験)



コース⑤
(バックヤードツアー)



コース⑥
(森や木の話)